

あかせん



真宗大谷派
高徳寺通信



如来坐像
(パキスタン・ガンダーラ)
2~3世紀



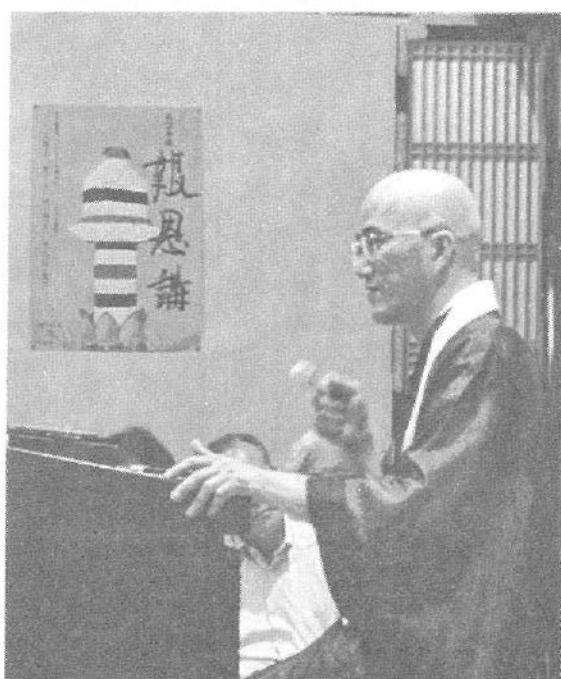
高徳寺 報恩講

法話スペシャル

2013.10.12

『悲しみを胸に』

～本願に生きる～



悲しみを胸に

か
かな
ほん
がん
むね

こんなに泣け。よつとお参りくださいました。この案内のこと、今日の講題「悲しみを胸に」、本願を生きるって、どう講題、いつもテーマでお話しさせていただきます。住職さんからお電話をいただいてですね、お題のことをじ相談したんですね。でも、たまたま、いろいろな悲しい思いをする方が重なりましてね……そんな思いもありまして、こういう題にしたんですけども、一般に私たちはいろんな目に遭うといろんな形でさせにやなうんですね。何度もお電話いただいた方で、息子さんが行方不明になつて、1年5ヶ月見つかることになりますね。本当に探しますね、親は、海に遺体が上がり、

う手がかりがないんですね。まあ、遺体が見つかる見つかって、これも大変ですけれども、見つからなくなつても大変ですね。本当に毎日毎日が……結局そのことで家の中もバラバラになってしまって、うまくいかなくなつているんですね。またある人は、2人暮らしをしていた連れ合いが突然亡くなつて、そのことがなかなか受けとめられなんですね。私はその方のお手次のお寺さんではなうです。お葬式をしたりする、そういうお寺ではなうです。でも鬼に角来てほし、電話があつて、行きますとね、こういうことは誰にもあることやうと……生きてれば必ず。ともにしておった人に先立たれるといふことは、これは避けられません。誰も避けられません。そしてその方が仰るには……鬼に角ご飯も何も食べられなくなつてですね、眠れないので、睡眠薬を処方してもらつて、そして点滴で……。

食べても何も味が分からなくなるのです。砂を噛んでいるみたいだし、食欲もない。どんどんどんどん瘦せていくですね。そしてその方が仰るには、みんな

どうやってこの苦しみを乗り越えるのでしょうか。いろんな人に聞くと多くの人は、時間が解決していくので、それまではね、大変なんですよ。同じ様に自分も子供を亡くしたけれども、随分苦しかったけれども、やっと受けとめて生きれる様になります。時間がかかりますよって、こう言うんだけれどもね、その人にとつては、その時間が待ちきれないと。もう死んでしまいたい。死んでしまいたいけれども、遠くに離れた娘がね、独立した娘がおそその子のことを考えると死ぬないし……って言っておられるんですね。ですからそんなこともあって人間：人間っていう存在はですね、他の生きとし生きるものと違って大きな特徴があるんです。何だと思いますか？ 他の：まあいろいろありますけどね、言葉を喋るとかね。まあ、言葉はね、イルカとかも喋るらしいですね。人間と他の生きものの大きな違いと云うのは、「迷」を抱えてるんですね。自分で生きたらいいかが分からぬ。社会の中で調子良く行っている時は考え方。でも困難にぶち当たったり、周りから否定されたり、失敗をしてしまったり……そうすると、生き辛くなりますね。そうすると、どうしたう良いかが分からなくなってしまう。その時にどうしたら

良いか分からなくなつたんではなくて、実は人間といつものは、はじめからね、どうしたう良いか分からないで今まで生きてきたんですね。その都度その都度こうやうう、ああやううと思うて生きて来たんだけど、翻ってみると、何して來たんだかさっぱり死んで行つても良いかって言うと、嫌だと言つんで死んで行つても良いかって言うと、特にないんですね。あと何がしたいんだって言うと、特にないんですね。ありますか？ あとこれさえ……ディズニーランドに行つたら死んでも良いとか。（笑）ありますか？ ないですかねえ。だから他の生きものはね、迷いなくそのまま生きるんです。迷いがないですね。毎回言いますが、カエルはね、カエルになるんですね。放つおいても。そんなことくらい知つてゐるわいって。言ひんでも分かるわいって感じですけど。ところが人間はね、迷うんですね。どう生きたらいいのか。その点である意味で、本能というものが、少し外れてるんですね。本能って言つたらその種が同じ行動様式をとるんですね。例えば、蜂は難しい構成をしてますね。いろんな蜂の役割がある。女王蜂がおり、働き蜂があつたりしてね。そして一つの巣を作つて種を存続させますけど。あれは考えている訳じゃないですね。本能的になつてゐるんですね。ところが人間はそういう

はないですね。ですから大きな一つの特徴は人間は迷いを感じ、迷いを抱えて生きているんだってことです。なぜ迷うかって言つたら生まれて来たことの願いが分からぬじんです。何しに生まれて来たんですか？ 知つて居る人。ないですか？ 私も分からんです。ところがね、迷うところは何かを求めているから迷うんです。何かを求めているんですね。あのう散歩している時に、そろそろ帰ろうかなって思った時に、あれ、ここはどうやうて、ううことになったう、これ、迷つたって言うでしょ。(笑) 難しくねじんです、迷うところのは。あれ？ 帰れなくなっちゃつた…。帰ろうとう要求のところに自分が帰れないと感じてるんですね。だからここにある一人がぬ、何か人生に虚しさを感じたり、あるいは本当にどう生きたいんだろうか？ 私は本当はどうしたいんだろうか？ これが分からぬじんです。ところ方は、本当のいのちを生きたいという願いがあるんですね。ね、ですからそういう自分の求めがある、あるいは、自分自身に願われているものに一瞬でも出遇ふと、そこに深く傾いたり、感銘を受けたりぬ、することがおこるのも、人間ですね。2つあるうちのもう1つはぬ、人間だけぬ、罪と

いうものを知つてゐるんですね。罪を知つてゐる。殺すところよつなかことをぬ。仏教の十惡。仏教で第一番目に言われるのは、「不殺生」。殺してはならない。でもそれは分かっているけど、殺しますぬ。毎日。まだ暑いから蚊が寝んできます。蚊が寝ぐると「ハチン」とやりますぬ。でも殺すてう感覚を持って殺しますよ。何言ってんのかなア…。人間以外の動物はぬ、他の動物を捕食したりしますが、殺してしまつた…なんて悩んでる鷹はいないでしょ。あんまり。そんなの見たことないですけどぬ。ないんです。でも人間は殺すってことによつて、自分で近いものを殺すほど苦しい思いをするように、どうやら出来てゐるんですね。皆さん、蚊は殺せますか？ 大丈夫ですか？ (笑) 私は蚊も殺さない時期がありました。こうやって捨つてね。あの一顔を刺されたら、すぐに搔かせいで15分くらいじーっと我慢してると、スーと痒みが消えるんですね。搔いてるといつまでも痒いんですけどぬ。なお刺激が与えられて、なんで知つておかつて言うと、さきからよどぎ紹介してくださいましたが、座禅をしてる時は絶対に動いたら駄目なんですね。



ね。で、戸を開けてるから、蚊にはこんなに良い所はないんですね。もうチーン、チーンって座禅が始まつたり、皆もう動かんから、吸いたいだけ吸うんです。(笑) 分かるんですよ、頭にとまってぬ、針って言つんですけど、口って言つうんですか、あれを刺す感じがうる。(笑) それからチューっと(大笑)、う吸そいるのが分かるんですけど、それで調子に乗つて思ひっきり腹いっぱい吸うんです。そうしたらう落つこちてくるんですよ。見えるんですけど、座禅していてもね。こう落ちて来てね、お腹いっぱい動けんですよ。ま、赤、赤でさ、お腹が。もうパンパンに腫れて。それで歩いてるんですけど、また次から次へとね、来るんですけど。もう今はぜんぜん修行をしてませしけど、25分座禅して5分休む、25分座禅して5分休むっていうのをずっとやっていくんですけど、1回25分間で何匹刺すのかなって数えてたら、16匹刺しましたね。(大笑) しかも同じ様な所を怪何回も刺すんです。しばらくしたうね、だいぶお腹が熟れてきたのか知らんんですけど、フラフラフラくって飛んでどこか行きますわ。といふことで蚊も殺さない時もあったんですけど。蚊は出来ますでしょ? ゴキブリくらには



いけますか。出来ますか? だんだんテカくなります。こんなこと言つてると時間なくなっちゃう…。(笑) 鼠はどうですか? 鼠。(イヤだ) 蜈蚣^{アシガ}でバーン! (笑) やりません? 猫はちょっと殺していくでしよう。昔は犬を食べたそうですな。大、食べたことがありますか? 赤大。近所のおじいちゃんは、大をこん棒ですね。ボガントやると、フギヤーと言って死ぬんだそうです。それを皮剥いで肉を食べたそうです。食べる物がな、頃はね。どの辺まで行けますか? (笑) 牛: 牛殺せますかね。こんなこと言つてると本当に時間がなくなってしまつ…。あの、魚を殺すのでも大変ですよ。本当に、私も魚を捌こうと思つてね、目が合うでしょ。田が合うとどもこうやりいくですね。だから板前さんなんかは、目隠しするんだそうです。目隠しすると暴れなくなるんだどうです。それに殺しやすくなるでしようね。やあ、目は怖いです。ね。そして殺さないでくれって言つていろんです、やっぱり。それを首のところに包丁当てる、「ゲキ」とやるでしょ。そうすると血がバマーって出ますよ。ね、料理し終つてからは、今度は美味しいって言つて食つぐんです。ね。人間だけがね、殺す感覺を持つているんですね。そして相手が殺されたくなつたとき、無理やり殺しているのを知つているんですね。だから

人間だけが罪の感覚を持っています。そして本来的にぬ、人間は自分を優先させる。他のものよりも自分を優先させようと/orする我執があります。今日もこうしてお話を聴いておで、他の隣の人のはどうでも良いのでしょうか？自分の心がもう少しちよと明るくなりますが、どうして聴いてませんか？こうしてお話し聴いて、あ、隣の人の心が温かくなっています。ようべって思ってました？思わんですね、なかなか。自分のことば、かり考えてあるんです。その自分、ことだけを考えてあるこの身がね、この身そのもの、この身の感覚が、いつも排他的で差別的なんです。自分の都合の良いものには近づくし、自分が嫌いなもの、嫌いなもの、気に入らないものは排除するようになります。だから鼻も目も耳もイイ香りは嗅ぎたいけど、臭い匂いは鼻をつまむんでしょ。「みこともない」と言つて「見どもなし」と意味ですね。だからこの身そのものが実は差別的なものでは、自分の都合の良いものを、自分の都合だけを中心にしてしまつ。だから罪と言つても犯した犯さないところから犯されるような犯罪と云ふことだけではなくて、人間の存在そのものが、この意識の存在そのものが、罪を

抱えているんです。縁があれば必ず間違いを起します。自分を守るために嘘をつたり、自分を守るために他のものを陥れたり、縁が起れば必ずそういうことになってしまつ。で、話を戻しますとなれば、自分とうちで人間というものは、非常に不安定でね、自分とうものを受けとめられて生きていきたいという気持ちを持つている訳です。仏法ではどういう中で人間というものは、非常に不安定ですね、自分とうものを受けとめられて生きていきたいという気持ちを持つている訳です。仏法ではだ一人歩むことが出来るのは、仏様だけです。覺りをひらいた人だけです。そうでない尼姑はね、必ず受けとめられてはじめて生きれるのでしょうか。だから自分を受けとめられておった人が突然、いなくなつたことは、自分を失うのと近いんですね。だから脳に大きな穴が開きます。で、よくよく今日の講題「悲しみを胸に」本願を生きねばならなければいけれども、その悲しみを受けとめておるが本願だと、そんなつもりで書いてみたんですけども、よくよく考えてみたら、本当に悲しみを胸にして本願を生きていると言つて、受けとめておるが本願だと、そんなつもりで書いてみたんですけども、よくよく考えてみたら、本当に悲しみに暮れているのは一時だ。消えてしまふとかね、薄れていくんですよ。だから時間が解決すると、この時は、薄れていきますという意味でしょ。でも私は



その方が悲しいです。悲しむべきことですね、されど、東日本大震災から2年半経ちますけど、悲しみが薄れていくんでしょう。放射能の問題は決着がゼンゼンついてない。これからまたこれからでしょう。チヨルノナイリの後のことを考えても、これなりますよ。どんどんどんどん癌が増えていく。食物の流通を考えると加賀の方でも放射能の入った食品が売られてます。東京でも一緒ですよ。それなのに終わったかのようにね、なってる。あの時はみんなビックリして声を失いましたよ。そして危険なものはもう動かしてほいけない！ 国民のほぼ全員が原発のない世の中、未来にしていこうと言っていたんですね。その年の夏には17万人も東京に人が集まつたんですね、明治神宮ですか、代々木にね、私も行つたんですね。すうじんでした。ところが今その集会やつても一人一人とか、悲しむべきこと本当に悲しみきることが出来ないから、戦争がくり返され、差別がくり返され、そして悲しみがくり返されるんですね。どうですか？ 何か…悲しむべきことを時間が経つと解決するんじゃないで、だれてしまつといふ、その

この方が悲しいんだないですか？ 悲しむ人間は悲しむべきことを悲しむきる事が出来ない。その悲しみを知った心で受け止め呼びかけてくる。それを如来と言うんだ。どうすると「悲しみを胸にく本願を生きる」といは如来さまの心ですね。如来に出遇う、如来の本願に出遇うことにおいで、私たちが忘れていた人間であるとの悲しみ。呼びかれ、手を合はずんですか？ そういう私たちの悲しみというのを「小悲」小悲ってこう言います。仏教のお勉強をすると、如来の悲しみは「大悲」と言います。まことに、「中悲」というものもあるんですけど…。人間の悲しみは「小悲」って言つて下さい。小さな悲しみって書くけれども、悲しみが浅い訳じゃなくて、人間の悲しみは「小悲」です。近所の方が…15年ずっと二人きりで暮して来た方がね、もう耐えられないと思つて電話して「お参りに来てください」と。でお参りしては少しだけ話を聞くんですけど、ずっと泣いておらねるんですけど。苦しくて苦しくて仕方がなあもんだから、自分の足を鍛冶ですね、ザクザクと刺してしまって、耐えられなくなる、苦しみに。だから人間の悲しみをね、個人的な都合を悲しんでるんですよ。

他のぬ、関係のなほどの國の人人が死んでもそんな風にならんのです。自分の都合を悲しんでるんです。だから小悲じと言われるひとつは、"個人的な"といふことです。悲しみが浅いといふんじゃないです。はげしい悲しみだけど、個人的な悲しみなんですね。自分の都合を悲しんでるんです。ね、だから遠くの誰かが亡くなつても……去年だったかな、帰りがけだったが、中央線に乗ってどこかで乗り換えるようとしたんですよ、どうしたら、電車が来ないですね。そして放送と電光板の字幕があって、人身事故が起こって電車が今ちょっと動きませんそ。よく経験されますよね。誰かが飛び込んだんですね。中央線、多いんですね。あの、心理的な連鎖がありましてね、自殺の名所ってのはあるんです。うちの方には「東尋坊」って所があります。ご存知ですか。ハイ! ああそうですか。あくまでも知らなか方が良いですけどね。まあそこには「ちゃんと待った」と言つておじさんがあるんですけどね。ずっと構えてるんです。怪しそうな顔した人が来ると、「ちゃんと待つた」と言つて。「ちゃんと話を聞かせてくれ」と言つて。そう、おじさんがいますけどね。そこへ行くと自分もその悲しみに暮れて亡くなつていった人と同じように死んだ

やす、です。もうだから連鎖します。身内で自由ら命を断つ人が出ると、やがて連鎖します。だからそういう時は、氣をつけてケアしていくかなければならぬと言つてます。「ピーストバンショーン」で、言つてます。で、その、どういう方が七くなくて、もホークの人は誰も手を合わすことはありませんし、中には舌打ちしている人もいますね。だから人間の悲しみというのは、自分の個人的な都合を悲しんでいます。それがひとつ。もうひとつはね、さっき言つたように、時が経つと薄れてしまうことです。時間が経つと薄れていってしまうことです。それは人間の悲しみが小悲じと言われる所以です。どんなことでもいいですけど、飼つてた猫でも犬でもなんでも良いですけど、先立たると悲しいですよ。そう、う思ひになつたことないですか? 全然ないりますか? ……? 私は全くない思ひには全然ない……。あると困つんでますけどね。だから生きてくれる、どうするとどういう悲しき思ひがある間は、他の生きものに対しても優しい心が起つことに困ります。自分の中に悲しい思いがある時には、他の生きものに対しても優しい心が起つることになります。自分の中に悲しい





ある時には、他のこのうちを生きるものを見てもやね。蟻
んこ1匹見ても、踏みたくねくなるのですよ。なぜだか
悲しみを抱えている時、人は優しいんですね。何か
心に悲しみを持つている人は優しいんですね。とい
うが、調子良く行っている人そこでは、だいたい
人でアドバイスして回ってね、五月蠅いんですね。悲
しい思いに暮れている人にいつまで悲しくなるくや、
そんなどことではしゃべった人が悲しませ、とか言って
分かたつもりになるけど、調子良く行っている人
のアドバイスってどうみは悲しくなっている人をなあ傷
つけるといつあります。特にお坊さんは氣をつけに
やさかんですね。お坊さんは変な業がありますね（笑）
いた人を見ると助けねばいかんよつて氣がしたや
まわもんね。悲しみでいる人がいたら、なぐとかして
あげやややけねってね……。困ったもんです。で
すから、この小悲」といふのは、ふたつ……人間の個人
的な悲しみであると云ふと、悲しみが続かない
ことになります。それに對して大悲、如來の大悲
このは、個人的ではない。じくな悲し
みも見落さない。声にならぬ、ようば
悲しみの声も聞きとるよつて
いう大悲である。そこでさういふを胸に

しておきながら、ね、だから如來が大悲をもつてると
いつもよりも、大悲といつそのものが如來。もうちより
違つと言ふ方をするとですね、次山の人が流して来た
涙がありますが、その次山の人の涙、結晶みたい
なものが、南無阿弥陀佛です。南無阿弥陀佛
へ言つたらね、次山の人の涙で出来上がってゐるよ
うなものです。それが一人一人、涙を包んであると、
南無阿弥陀佛、南無阿弥陀佛……、こう利用
するのではなくして、そういう次山の人の悲しみを
見て来て、そしてそのものに人間の悲しみに還る
念佛を申して生きて行ってくれと……そこには深いも
のが感じられます。先程も申し上げたように、私たち
が迷いを抱え、罪を感じると云ふことは、実はそう
いう厳肅ないのち、厳肅ないのちのね、深さと、
そう、うちに触れる。如來大悲に出遇う、触れる。
そのところにはじめて深く頷くものなへだと。自分の
都合が悪かったのが、都合が良くなるとか、そういう
ことは、むしろです。悲しみを喜びで埋めようとう
のではなくて、悲しみを悲しみのまま、それを念佛に
転じて、悲しみを悲しみに終らうせず、悲しみのま
うに手を合わさしむる、何か嚴肅ないのちかな、人
間に感じさせる。そういうのですよ。どうぞよろしく

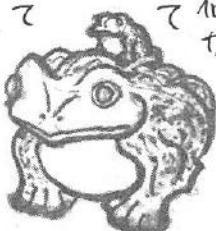
もう一つ、かういふことは、たゞで何回か申し上げたことがあります。それが、恨みに因つたり怒りにはあるのですが、悲しみと、うものは、この小悲の悲しみはね、一つの傾向がありまして、悲しみが深ければ深い程閉じていく傾向があるんです。閉じていくて言うのは、他の人には分かってもらえないという意味です。それが一番苦しいんですね。一緒にぬ、分かってもらえる、一緒に泣いてくれる、そういうことがあれば良いのですが、悲しみが深くゆきけばこゝ程、この悲しみは誰にも分かってもらえない。そつとう気持ちになります。そんなことを感じたときに誰か言つてもきっと分かってくれない」と思つと昔レジンやなへんですね。どうですかね。かういふ通りに誰かね…。ですから悲しみといふものは、深くなればなる程、そこに孤独という問題が立ちあらわれて来ます。悲しみが深くなればなる程、そこに孤独という問題が立ちあらわれて来ます。そして、その孤独ということも避けうれしいです。人間の抱える問題なんですね。ですから悲しみや悩みが悲嘆で深くなるところに孤独の問題がある訳です。そして、かういふが閉じていく…と同時にそこへ逆に悲しい目に遭つたとの縁になるようになります。自分を責めてね。もう一つはね、意外なことになります。



「…ありますね、それを恨みに因つたり怒りには…」
「…。悲しみが怒りになつたりする。そういう形で、小悲しみとうものは閉じていく傾向を持っています。閉じるんですね。だから本当に閉じていくと、『あ一分かるよお』などと言つとね、「お前なんかで分かるのかな」って。逆にね、ますます孤独になるぐれると遺された者、特に親が子を失なうっちゃうのは、かなり厳しくんです。そしてたいていの場合では、突然なぐですぬ、親にしてみると子供はずっと悩んでたんだけれども、親には相談出来なかつた。たいてい出来ないです。一つは、分配かけたくなごと田代するんですね。だから言えねーんですね。そして遺書を残す時には必ず「（）あんなさい」と書いてあります。親には、それは、愛されていくのは分かってるんですね。だから生きられない。だから本当にお互に困ります。だけども生きられない。だから本当にお互いに困ります。でも分かり合うことが出来ない。そういう人間の根底にはね、孤独があるんですね。これは深い問題ですね。そして遺された家族は特にね、親は分かってあげられなかつたということでものすごく自分を責めます。一人で逝かせてしまつた。何も分かってあげられずに一人で逝かせてしまつたって、言ってるものすごく苦しみます。自分で責めてね。もう一つはね、意外なことになります。

ね、怒りを感じるんです。「なんで勝手に死んだんだ。」ってね。ところがその怒りがまた逆にあんなに苦しんで一人で死んでいた者に対して怒りを感じている自分にまた今度…自分を責めるんですね。そりやって葛藤します。で、そういう人のところにね、いろんな方がね、アドバイスをするんですねけれども、どんなアドバイスもほとんど役に立たないそうです。ただ私が読んだもの、出遇った人、その人々の声を聞くとね、たいてい何も言葉が出来ないでは、おおお泣いてくれた人が…あの人が一番私の心が少し安らぎましたと。そう仰ってました。あの、そういう出来事があるんですね。私たちの閉じて「涙」が怒りにもなったり、自分を責めたりいろんなことを起きすくですけれども、その心がね、少しでも溶ける、そうこう…この閉じていたものが開いていくって「涙」とが起つ。これはなかなか難しく、ことですが、起るとしか言ひよつがなんですねけれどもね、その方に声を掛けようと思つてきだけ掛けれる言葉がなくて、苦しくて、自分も泣くしかせいい、そういう人の想いがね、何かこの苦しんでる人の涙を少し溶かす…。今月号の同朋新聞にインターネットさせてもらつた、石牟礼さんという方の紙袋に入ってるのかな? 皆さんの記念品の紙袋の

中に入ってるんですけど…。それなんですけど、今回連続になつていて、先月号と今月号。で、今月号のところにも先月号のことがちよつと触れてあってですね、書いてあるんですけど。お借りしていいです。あの、最初のページをめくつて、いたゞくとですね、廻りの下から2段目に赤っぽい字で段落が変わつた所に、前回9月号の「問え神」って出て来ますが、分かりますか? 「問え神ってこんな字を書くあります。でしょ?」その問え神ってどういうことかって言うと、熊本の水俣の方ではね、「問え神ってこと」と言ひ伝えて来たんだそうです。どういうことかって言つうと、先月号に書いたんですけどね、こんなことをぬ、石牟礼さんは仰つていたんです。ある家で不幸があるとするでしょ、誰かが亡くなつたりね、大怪我をしてしまったりして、どうしようつからて、とくに亡くなつてしまつたって、言つう時にね、何もしてあげられないんですね。やっぱり、どうにもならんし、何もしてあげられないと、だけどそりして、どうしようつからて、とくに亡くなつてしまつたって、の家の前をね、行つたり来たりするんですね。何かしてあげたい、何もしてあげられないって苦しむんだそうです。周りの人達も、そして結局何もしてあげられないんでですね。ところが時が経つてあとになつて



愚え加勢をしてもうって本当に心強かった。“愚え加勢”…愚えて加勢してくれる。加勢って言うのは勢いを加えるの加勢。あん時は愚え加勢をしてもうって本当に力強かった、有り難かって言われるんだ、そうです。そう、出来事を「愚え神」の出来事だっちゃうんだって。愚え神様がね、愚え神様が現れてね、そして、その悲しみに暮れている人達を、まあ包むって言いますかね、そう、うつことがあるんだ、ちゅうですね。それで、この段の所にですね、ちゅうとだけ読みますとね……「如来は必ず悲しみの世に、あるいは、苦しみ五濁の世に生られるのです。仏さまは悲しみの世に出るのです。悲しみの世に出て悲しみの人々を救うんです。こういうこともね、あらためて尊いなって感じますね。如来は世に出て来られる。次山の人人が苦しんで、いち終えて行く。そういう人達の囁び声、その悲しみを通して、のちの尊厳や厳肅さ、あるは深さがもう一度人間にもう一度立ちあらわれて来る。手を合やするような出来事ですけれども。非常に、ことですが常にいのちの尊厳や深さ、嚴肅さといつものは、それが失なれれた悲しみ、歴史で言つてゐる踏みに



じうれてきたようなことですよ。公害あるいは戦争、差別。そういう中で踏みにじられてきた…ね、そういうふうに失られた、嚴肅さが踏みにじられたような、そう、失われた悲しみや苦しみのところに初めて見えて来るんだと感じさせられます。前回9月号の「愚え神」ということも、苦しみを見てしまった者の苦しみの上にはたらき出る。愚え神がですね、出て来る。そう、う形で大切なものが世に現れる感じがします。それは五濁の世、悲しみの世に如来が現れるような厳肅な出来事ではないが、ま、そんなふうにね、書かせてもらうんだんです。あの、私達がそういって、ような閉じた悲しみが開かれていく時には私達。思ひでうまこと、アドバイスですね、開かれていくと、うようなことではなしに、もっと人間の思ひを超えた、どうか、こちゅう計算、ではな、ような出来事の中に、悲しみが開かれて行く。そう、うつは形で、仏さまの世界といつものが開かれていると、こう言われて来ぐんです。ね、ちょっと違う例えで申し上げますとね、これ例え話でヒッタリいかないかもこれませぬが、す、分昔にですね、テレビを観てたんだね。今も続いてますが、イスラエルとパレスチナの問題ですね、ずーとね、もう60数年殺し合いを続けてるんですよ。ね、60数年。オ、次大戦が終った

直後、アメリカが主導して国連がユダヤの人達に国を与えないと、又争い伏起き、虐殺が起きていくではないか。ちゅうことで、ユダヤの人達に國を与えた訳です。それがイスラエルです。ただそこはアラブの人達のね、イスラム教の人達が住んでいる土地だったので、それを追い出すことになつたんですね。そういう形で、ペレスチナ難民が生まれました。大変なやり方だつたんですよ。土地の奪い方はある日突然ね、「今日はイスラエルという国になるから出て行ってくれ」と。そして取るものも取り合はず出て行きますとね、その家を戦車が皆踏み潰すんですよ。もう戻って来れぬようだ。そこで植林して森にしてしまう。もう2度と戻って来れないようだ。それまでその人達は貧しい家が多かないうだん。それまでけれども、ニワトリ飼つたりして食べてた。お客様さんが来ると、じゃあ今日はじぶん駆走で二フリをひとつ絞めようか。そんなふうにしてね、平和に暮らしどった。それがある日突然今日からここはイスラエルになると。どうしますか、家に帰つたら今日からここは違う國になるからお前達出て行け！……ねえ。そして出て行かざる。まあ簡単に言いますとね、出て行かされた人は恨みを持つい



る訳ですよ。そしてイスラエルの人達に恨みを持つて石をぶつけたりする。そして石をぶつけられた方が、今度は仕返しだと言つて銃を持って来て撃つ。銃を持って来て撃たれた方が仕返しだって言うとで爆弾テロを起こす。そういう形で「一対一で殺し合いが続いているんですよ。私の観た映像ではイスラエルの若い兵士がペレスチナの人達に捕まって、ビルの中に引きずり込まれてね、もう大変な暴行を受け、体中骨が砕けてね、グランジングになつた状態の兵士を2階から放り投げるところを二度三度で観ました。投げてた方は奇声をあげてるんですけど、パレスチナの方に対しては、イスラエルの人達が今度は銃で撃つ。子供が走って行くのを守ろうとして、走って来た親が子供の目の前で撃ち殺される。そんなことが繰り返されてくる。殺された親の子供は、今度はやっぱり石を持って兵士に石を投げるでしょう。それである平和団体「シーズ・オブ・ピース」って言う、「平和の種」と言つれる、宗教が基本になつた平和団体ですね。パレスチナの若者とイスラエルの若者に募集をかけて自分たちの未来について話し合って欲しいと、10日間キャンプを運営している。

に参加してくれと。14・15・16・17歳ぐらいのね、若者を集めただんです。そしたら次山集って来ましてね。そしてキヤンナをするんです。同じ釜の飯を食って。そうすると、やはりイスラムの人達は1日5回、礼拝の時が来るといつも禮拝の時ですって言って礼拝する。ユダヤ人はユダヤの人で禮拝の時間が来ると礼拝する。はじめはね、その宗教そのものもモ嫌いしてたんですね。お互にね、ところが人間は不思議なものでね、一緒に釜の飯を食べてるとだんだんね、親しくなって相手を人間としてやっぱり同じ人間だなって思えるようになります。そうすると、やってる儀式もあんなにも嫌としてたけど一生懸命お祈りしてくる姿をみると、尊いなあっていう気持ちにも、お互いなくて来ただんですよ。

そして班に分かれて話し合いをするんです。班に分

かれます。そして話し合いで未来をどうしていくたら良いか、殺し合ひのない・イスラエルとね、パレスチナの殺し合ひのが、未来を築くにはどうしたら良いだろうかって話をするんだけども、話しがちっとも準備せんですね。だいたいせんでもあんなうち、ちゃんと子供に石づけさせるんだって。そんなことをさせなければ、いつかだって発砲しないんだってイスラエルの人方が言つてしまふと、どうするとパレスチナの人曰「なんぞ子供が石を



投げるの何分からんのか!お父さんを殺されて悔しくて投げてるんじゃないか。そっちこそ銃を下ろせ!」
だんだん喧嘩説とむってね……ほとんどの子供の身内や知り合ひが死んでる訳ですよ、殺し合ひで。そうすると、悲しみが怒りになつて相手にどうしても向いちゃつんです。悲しみが怒りになつてね、どーしても相手に向くんですよ。そうして、ガーッと喧嘩になると、その中の1人がね、机をバシッと叩いて立ちあがり、僕達はこんなことを話し合うために集つたのではなくてはなないか、ってね。半ばソラからて大きな声で叫びつと、皆下を向いてね、だまー、て下を向くんだけど、もう一回話しこじめても、やっぱそらがやるからだ、こちがやるからだ、お前達がこーするからだ、こうしながられば良いのに……。お互いにやっぱり批判になってしまつてね。ちつとも話が進まなくなつた。それでも一緒にご飯を食べて数日経つて、どうお互いを認める、友達付き合ひもする……ね。ところが話し合ひをすると上手くいかない。そうやって、1週間くらい話すとだいぶ煮詰つて、皆もう煮詰つたんですね。そんなある日ニュースが入ってきた。皆を講堂に集めてね、「たった今ニュースが入りました。イスラエルの市街地でバスが爆破されました。18人が即死、63人が重軽症を負いました。そういうニュースが

入って来ました。」と報告したんですね。そうしたら、驚いたことに、その話し合いで泣いてた若者がね、皆近くに居た人同士抱き合って泣きはじめたんですね。まだは、どれだけ話し合をしてもひとつにならなかつた人達がね、互いに泣き合つて…。オイオイオイオイ皆泣いてました。私もなんだかね、何が起つたか分からなかつたんですけど、涙が止まらなかつたんですよ。それはいつた、「何だろうって言うとね、まあその畢竟にまったく話し合つて変わることですね。絶対にこれが終わつても会おうねとかね…。会えないうですよ、向こうへ行つたう殺されてしまひますからね。それでもぐぐり抜けてなんとか会おうねって言つた



り、あるいは中には自分は来年イスラエルの兵役で、イスラエルの兵隊になる。イスラエルの兵になることに名譽すら感じるけれども、僕はこの人達に銃を向けるんだろうか?って言って悩んでいた人もいました。その日を境にガラッと変わつたんですね。で、それまで思ひますとね、この私達が悲しんでるその悲しみがね、ずーと話し合ひをしていても、話し合ひがちとも進まない。その中にまたしても爆弾テロが起つて。ずっと殺し合ひをやめた日が1日もまつて以来、ずっと殺し合ひをやめた日が1日もなんですね。他人事でなじです。私達の身の中にはそれがあるんです。暴力性があるんですね。この中に暴力性を持つてない人がいますか? こういつぱいは、拳ですね、こうやって叩く、拳が銃を持てば…あるいは、拳がミサイルになつて…。この拳が核爆弾になつただけの話ですね。元々根っこにあるのは暴力力です。暴力性を持つているんですね。人間は、唯識には悲しきれども抗つた、他のものを害したり、と言う煩惱の20数えるの中に…。私達の中には、どう心があるんだと。気に入らなければ、あるいはただいたすらに…。私自身にも覚えがありますけどね、殺してみたくて殺したことないですか? 虫でも。ちっちゃな頃ですけど。子供の頃に、いたずらに殺す。だからそこにね、害心を持つて…。他のものを害する、そういう心を持つてることで泣いたんですね。その人達は、互にね、人間であるひとの人間であります。それまで怒りとなつて相手に向つて、たその悲しみが…。それは人間から出発する悲しみです。だけどその人間、そのものを悲しむのは人間を超えて、特に現代。私達が失つてるのはね、喜びや満足が失

われてゐる。未来が失われてゐるのではなくしてね、人間であることの悲しみというものが失われてゐるんだとまあ、そう思ひます。ですから本当に罪を犯してしまそぬ、そのことに悔いて泣いてゐる人の涙、その涙は人の心を打ちますね。死刑が決まって、本当は殺したくて殺したんじゃない。そうなってしまった。捕まるのが恐くて殺してしまった。そう言つてね。でも本当に申し訳ないとをしてしまったと。自分が死刑にちぎり死んでいくことで、遺族の人達が少しでも心が安らぐなうぬ、本当に喜んで死んで行きます。本当にごめんなさいって言って涙をこう、流されると。そう言う涙が、罪を犯した人の涙が人の心を打ちます。それは何でしようね…。そういうことができます。私は連れていだものを呼びかえしてもらといふんだと思うんです。日頃の生活の中に喜びや樂しみだけを追求してゐる私達に、もっと大切なものを呼び起させてくたさつて、ような、そういう氣がいたします。前にも1度ご紹介



DVD 9枚持

て來たので後で買ってください。(笑)一枚1000円なんですね。学校の教材としても使えるようにして50分にまとめてあるんですね。でももうすでに大学の授業や高校の授業で使ってもらっています。で、値段はです、一枚1000円するんですね。がア、今日は報恩講です。レイ…高徳寺値段で800円で(大笑)お分けいたしますので。ただし9枚しかないんで、パンフレットをお持ちの方はパンフレットで申し込んでいただけば、お送りしますので…。それで彼はね、もう4年前に亡くなっています。海兵隊に入つてね、ベトナム戦争の最前線に行って、戦闘をして來た人です。海兵隊というのは最前線に行きますので、枯葉剤を撒いたその後を真っ先に行くもんですから、枯葉剤の影響で多発性骨腫瘍を発症して、約2ヶ月、発症してから2ヶ月で、あ、という間になくなりました。お見舞いに行つた時、ニューヨークの病院の同じ階で、元海兵隊の方が5人、癌になってしまったけどね。ま、彼はスラム街で生まれて貧乏でご飯が食べられなかつた。シングルマザーで4人の兄弟だったけど、学校へ履いていく靴が無かったんですね。4人ですね、1足を交代で履いていたそうで、どれだけ貧乏な分かりますよね。で、結局お金が無くて高校も中退していきます。そして黒人だ、

たといへるで、その頃は今よりもさらにひどい露骨な差別がありました。で、そういうこともあって彼は政府の人に海兵隊に入らなければって言われた時に、綺麗な制服を見せられて、「これが着れるぞ、」と飯が腹一杯食えるぞ、お金も貰えるぞ、そしてお前のような者でも人から褒められるぞ。で、これは私達には分からぬ、と思ふんです。お前のような者でもって言うのは、黒人でもって意味ですか……。まあ、ちょっとうんなエピソードがあつたんですけどね、アメリカに行ってる間に、今、話してゐる暇無いんですけど。キンギ牧師が暗殺されるまでに運動がすこく起つたんですね、黒人の運動がね。その発端になつたのがバスの座席の問題だったんですね。私はそれを知らなかつたものですね、アレンさんが私にね、ひとつ席が空いたから座れって言つてくれた。私はイイです、立つてますから、アレンさんは、ひとつの上位の命令には絶対に背かないようになる訓練があるんですね。まず口を開じろ、考へるな、ついた訳じゃないけど、座つたんですよ。間をスッと抜けて、そんな、ぶつかった訳ではなくてね、ちよつとつう避けて座つたんですね。ところがアレンさんがあの白人の女性は知らん顔して新聞を開いて読んでる。その女性に向かって「すみません、지요。」そう言つべきでしょ。ってこう言つんですよ。なんかこう緊張

しきしたよ。ちゃんと。そしたら、白人の女性は知らんしてね、新聞をずっと読んでるんです。そしたらアレンさん、3回！ だんだん声が強くなつてね、すみませんでしょ……。横で見ててどーなるのかなって思つて、こっちはドキドキしましたけれど……。それでアメリカから帰り始ましたってことがあって、そういう歴史の中ですね、彼がね、どういう思いも持つてたんだなって分かりましたか。結局彼は海兵隊に入るのですが、彼が海兵隊に入る時に、軍隊というものは、平和を維持するためにあるものやと、彼は思つて、たそがです。だから国を守つたり暴力から守るために命を助けるもんや、と思つたって。私もど、かそんな風に思つてました。ところがね、軍隊に入つてまずは教わることとは、ひとつは、上官の命令には絶対に背かないようになる訓練があるので、まず口を開じろ、考へるな、そして言つられたことは絶対に服従しよう。だから昔の前で、パンツ下ろさせて言つたら、パンツ下ろすんですよ。とにかく絶対服従。夜中に起こして皆を整列させたりぬ。とにかく自分は絶対に喋らぬで考へない。考へることは上官がするからお前達は命令に従えと、この訓練をまづするから



ですね。その次にやるのが、人の殺し方を訓練します。この、人の殺し方は勿論、高性能爆弾かう、銃を分解したり、組み立てたり、そしてナイフをどの角度で刺すのか、前からだつたらどうするか、後からだつたらどうするか。確実に即死させる。要するに確実に殺さないと抵抗を受ける訳ですよ。逆にやられるかもしだいのでとにかく確実に即死させられる場所を刺す訓練をします。それから素早くどうやるか、ぬ、紐や棒を持そだつります。そして3番目は、相手の国人の人を人間と思わせな、ようく訓練する。殺していい奴らだと思ひせる。だから彼が言ってたけど、原子爆弾をぬ、赤ん坊や病人や老人のいる、その上に落とすことが出来るなんていうことはぬ、こんな無差別殺人はなぜでしょ？ 原子爆弾をぬ。下にいる人達は人間でないと思つてだからって彼は言つました。下にいるのは「ジヤック」だから、「ジヤック」は人間じゃないって。「ジヤック」(セードブネズミ等の大型のネズミのこと)、ジヤックと一緒に落とせたんだと。なんか語感がぬ、小動物みたい。だから落とせたんですね。相手を人間だと思つたら殺せませんよって。今も、皆さんにひとり

ずつ銃渡してぬ、隣の人を殺していくださうって言つたうて、殺せないでしょ？ 殺せる人もいるかもしだいですけど…。殺せないんですよ。なぜかと言つたら、同じ人間だしお友達、縁のあるお友達だと思つていると殺せない。殺していい奴だ、放そおくと悪いくことする、殺していい奴、人間じゃない奴う。これが3番目だそうですね。だから毎日訓練をしている。そういう訓練に明け暮れてぬ、それが終わると、沖縄へ行つて寒弾を使つた訓練が始まっています。林を包囲するアーバンヘリと一緒にね。その時に標的が変わったそうですね。アメリカで使ついた標的是こういう弓的◎↑みたはもんである。それだとどこを狙うか分かるでしょ？ 分かりますよねエ。真ん中狙えばイイんですけど、沖縄ではこんなねエ、こんな形に変り、こんですよ。沖縄ではこういう的なんですね。これは人型的ですね。最初に習うのは、人型的のどこを狙うかを習うんだそうですね。で、彼は講演する時いつもね、皆さぶさあ銃を構えてください。ちゃんとですよ。こうやって構えてみてくれって。そう言われて皆やるんで、それでこの目的のどこを狙いますか？ こうやって実際に狙つてみてください。それだけで嫌な氣持ち

になりません？なんか。誰かここに立ってもうって。(笑)
 ほんじゃあ、私でいいですよ。狙ってください」と言って
 ね。どこ狙いますか？これだけでゾックとしますから。それ
 で話が進んでいってですね、あの：頭って
 言う人結構いたんですよ。頭を狙う
 人。そこから心臓も多かったです。心臓
 は1番多かったです。どこへ行つても。
 で、手とか足の人たちまさにいたんですよ。
 で、私ははじめ手とか足に手を挙げたんですよ。
 ね。で、今から本当の戦争の話をしますって彼が言
 つてね。頭を狙った人はもう一度手を挙げてくれ
 さいって言つれて、手を挙げると、「あなた方は、残念
 ながら戦死です」。頭は標的としては小さく、から外
 しやすく。ジヤングルの中で一度発砲したら相手
 に自分の居場所を知らせてしまって、確実に
 相手を仕留めないと、必ず反撃を受けると。
 死ぬ確率が非常に高いって。だから頭を狙えとは
 習いません。手や足だと言った人、もう一度手を
 挙げてください。私、もう一度手を挙げたんですよ。
 「あなたはさっきまでの私の話を聞いてましたか？」
 (笑)軍隊といつものは、負傷させろとは絶対に
 言わながんだ。殺せと。れど毎日言わされたう



ですよ。「お前達は何だ?」「海兵隊です。」「海兵隊
 は何だ?」「殺すんです。」「聞こえない。」「殺す」「聞
 こえない。」「殺す」…「れど毎日やるんだそうです。
 殺す、殺す、殺す、殺すって、これをずっとやったそ
 うです。そう聞いてきたけど、實際、どう構えますとね、
 うくん手や足かなアして思つて…。さっきまでの
 話を聞いてませんでしたかって言つれて、ああ、そうやな
 くて。そうち、戦争って、うのは、負傷させて戦闘能
 力を奪うんではなくて、殺すんだ…。で、心臓の人って
 手を挙げる。これも身体の端っこだ。真ん中より左
 に寄つてゐるので、これも狙いとしては外す可能性が
 あるんだって。やはりここを狙えとも言わない。こう
 て言つた人は、だいたいが映画の観すぎですって。(笑)
 そう言って皆を笑わせてました。だから必ず殺すと
 いうことが、軍隊なんです。やるのは全部人殺しの
 練習なんです。朝から晩までね。そして實際に彼
 は戦場に行って人を殺すことになつたんだです。初めて
 人を殺した時にはね、こんなに簡単なもんかと思
 つたって。200メートル向こうに人が動いた。それを、指をち
 ょつと動かしただけでは、向こうで倒れる。だけどそ
 こから後が地獄だったって。もう2度と普通の精
 神状態には帰れなくなつた。そして、その倒した
 遺体の確認に行くんですね。何が持つてないか。地

凶を持ってないか。情報を持てなかよしとて何人が死んだのかを見るのですね。そうやって初めて殺された時には上官がぬ、「よくやった。」れどお前も一人前の兵士や」と。記念のナイフで耳を切り取って持つておけと。先輩の兵士の中には、殺した分だけ耳をぶら下げている人もいたそうですよ。そうやって戦闘があつて、殺し合いをして…はじめのうちは銃の柄に数字を記しておいたそうですけど、2ヶ月してやめたって。やめたのはね、数え切れなくなつて来たからだそうです。殺した人の数がぬ。そしてある時には、だんだんだんだん残酷さが増していくてね、村に入つて「ゲリラはいな」かって聞く。「いな」とて答えが帰ってきても適当に女性や老人を殺して見えるところに引きずってきて、轟がしておくんですって。そうすると、それをジャングルの中にいるゲリラ達が見てね、妻や親や仲間が殺されているのを見て、悲しみと怒りでね、ジャングルから飛び出して来てね。銃を撃つて飛び出して来るんだと。それを待ち構えてまた皆殺しにする。アハチヘリや何かと一緒に殲滅作戦をするとき、赤んぼから老人まで、特に足の悪い老人が沢山死ぬ。だから、戦争で亡くなつたのは兵士ばかりではなくて、老人も女性も子供も乳飲み子までも殺したそうです。ね。そしてその遺体をぬ、女性の山

男性の山、子供の山…それれに放り投げていく。ちっちゃな子供の遺体を首の取れてしまつたのやら、脳みそが飛び散つたのを集めて一体にしていくんだそうですが、そうすると、そこで数日待つんですね。並んで行つた人達を全部捕まえるために。数日待つてると、ジャングルの中から子供の泣き声が聞こえてくる。お腹が空いてくると、必ずその子供たちはぬ、女性の死体の山へ行く母さんを探すんだそうですよ。彼が見つたのはね。そして見つけるとね、腕がもげてようが構わずお母さんに取りつじて泣いて離れないんだそうです。月、ジャングルにおいて、帰還したんですけど、その後、自分が異常になつてゐるのにある日、氣がついたですね。建国祭の日でしたけど、花火の音がして、フランス語で「おめでとう」と言つてくださいと、花火の音で自分が戦場にいる状態になつてしまつ。そして、ニューヨークの街中で車の下に潜つて銃を構える格好をして、こうやって一生懸命こうやってやつたり、笑ひ声が聞こえて来て、気がついたら自分がそんなことしてたって。家に帰つ



ですから毎日毎日、燃えかかる家や、子供たちの泣き叫び声や、殺しても殺しても立ち上がりて来るベトコシの人達やね、そういうのが毎日彼を襲うんですね。声を上げては目を見覚まして、ほとんど寝れなくなっています。あまりの異常さに出てつくれって(家族が)言つるので彼は1週間でホームレスになってしまったんです。そう、う中で、いろんなことがあってですね、ある日、小学校でお話しすることになつたんです。知り合いだった女性の先生が呼んでくれたんですね。なんとも断つたけど、戦争のこと話してくれて言われて、彼はどうとう、行つたんです。そこでは本当の事は何も言わせなかつた。言えなかつたけど、沢山の人が死にましたとか、お金がすごいかかるんですけど、お金がすごい暑くて大きなビルがいるんですよとかね、そんなことで終わつた、そうですが、質問の時間にはつて、いふん



供しか出来ないですかね。その質問を受けたときにネルソンさんは何かで殴られたようにな、「バーン」となって、声に詰まってしまってね、下を向いて目をつぶして殺した人の血だらけの姿が浮かんで来て、上官の声も聞こえて来る…。「一人前だ」って。そして「うのすばは」という心と、本当のことを言わばチヤ駄目だと嘘をついて殺さないで済みましたって言って帰しました」という心が行ったり来たりしてね。で何分経ったか分からないけど、下向いて目つぶつたまま、「ハイ、殺しました」と答えたそうです。でも、もう目を開けることが出来なくてね、どんなふうに見られてるか…。人殺して見てるやううと思って、目を開けることも出来なくて、自分を紹介した先生を恨んだりしてたんだけど、来るじやなかつたなあと思つたたら、誰かが触つたんですね。パツて目を開けたり、質問した女の子が彼のところへ来て、彼に抱き付いて來たんですよ。それで腹のあたりにあたた顔をね、こすり付けながら、彼を見上げたう、その女の子の目にいはい涙がぬ溜まってね、そして「可愛想なネルソンさん」と言つて、また抱きしめてくれたそうです。その一言を聞いたたら、彼の方が息が出来なくなつてしまつて、息が止まつたって。それでなんとか震えなが

らやっと、フヤーって血を吐いたりぬ。涙がボロボロボロボロ顎を伝って落ちた、そうです。それまで泣いてもいなかったですよ。何回もね、こんなふうになってしまって、沢山の人を殺してこうなってしまった自分の選択を悔やみ、何べんも自殺未遂をし、涙すらも戦争で奪われれどだ。ところが「可愛想なネルソンさん」と抱きしめてくれた、そのところにね、ボロボロボロボロ涙が出来たそうですよ。そしてその時に、ジの中学で何かが溶けた。涙でかすんだ目で見てたら、教室中の子供たちが次々に抱きしめに来てくれて、教室の隅では先生も涙を拭いてたそうですけど。まあ、それがきっかけとなって彼はPTSD(心的外傷後ストレス障害)を治して、本当の戦争を皆に伝えなきゃいけない、死んでいった人、殺してしまった人、その遺族の人達に代わって自分が話していくなければならなくて。それからPTSDを治すのに18年かかる話をしてくださるようになります。その後、治療の最後のきっかけになった時はね、ずーとね、9年近く、お医者さんが毎回「あなたは何で人を殺したんですか?」って、「毎回聞いたそうですね。1週間に1回か2回の治療に。その都度、自分を守るためにね、軍隊だったからです、戦争だったからです、上官の命令は絶対なんですが、その都度答えてたそうですね。

でも最後にもう、自分で逃がれられない、と思って、本当のことと言わせきや駄目だと思って、「殺してイイと思つたんであります。殺したかったんですね。」そう言つたんだそうですよ。で、そのとたんにね、ださうです。それで良かったって、言つべきことを言った。本当に申し訳なかった。間違っていたんだって2つあることが同時に起きた、そうです。ひとつは、言ふべきことを言つて初めて自分を守ろうとして苦しんでいたジから解放された。もうひとつは、殺した人達の顔が次々と浮かんで来て、そしてその遺族のことを思つて涙が止まらなくなっこね。2週間、夜も昼もすーとベッドへ座ったままね、涙が止まりません。で、その彼が私と話をしている中で一番印象的だったのはね、戦闘中に防空壕の中で子供の出産に出遇うんですね。それがひとつきっかけでもあったんですね。で、その時にはじめにね、水が出た。破水の水が。その水が清うかったです。それから赤ん坊が生まれて来ました。人間は水とともに生まれて来るんですけど。そしてその水は涙に繋がっていふんだと。人間は涙を通して人間になつていくんだって。それが真実に繋っているんだって。こういう事をね、言つてくれたんですね。最後の、亡くなる前にもね、病室でいろんな話をしたんだけど、この話を私はとても



印象的でした。そういう話をしたらうそうやつたねって
言って、そして最後に自分は仏教徒として死んで
行きたいから、妻にも娘にも承諾をもう得てい
るから、自分はこんな状態だから、もうもたら
いから自分が死んだらお葬式をしに来て欲し
いんだ。と、こう頼まれましてね。それから10日後には
亡くなっただんで、すぐ又、アメリカへ行ってお葬式をして
来ただんです。まあ、彼について話すといろいろあ
りますから、それだけで沢山話したことあります
けど、悲しみを胸に、罪を犯した人の悲しみとい
うところには、その涙のところに、私たちが何かこ
するんですね。だから悲しみを胸に、本願に生き
ると、どうことは、仏さまの世界のお話。そこ
から私達がもう一度、そのいのちの嚴肅さ
に目覚めていくてくれ、手を合わせて念佛申す、
そういう大切な身に呼びかえされていくくれと
願わせていることでございます。お話をこれで終
わります。よろしくお参りくださいました。

(終)

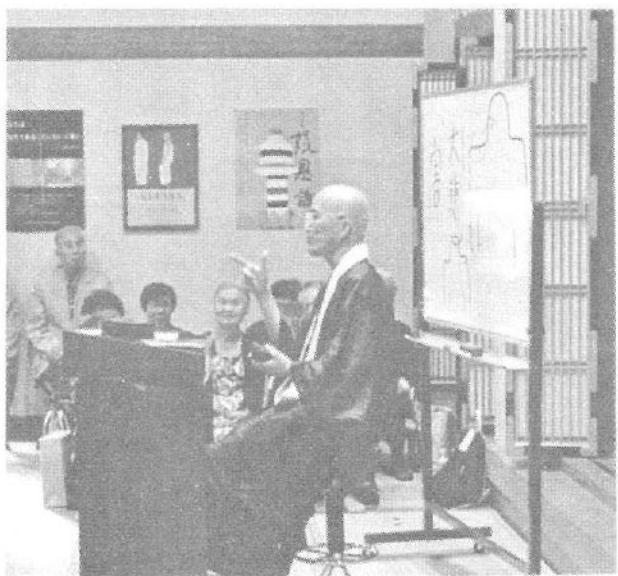
◆ 高徳寺報恩講 法話

講師 佐野明弘 先生

『悲しみを胸にくく本願を生きる』

二〇一三年十月十二日(土)

(文責・高徳寺住職釋義祐)



石牟礼 そうですね。ただ言葉として受け取って、わかつたつもりにはなれないですね。普通は数々の自己弁護を考えますものね。何か、どこかに「自分も許される」とあります。そういう言葉の網を自分に掛けて振り絞つてみると、何か骸骨たちがいっぱいおりますよね。

—ある方がアウシュヴィツ(強制収容所)を訪ねられた時のことと伝えてくださいました。敷地内では、ユダヤの人たちの殺され打ち砕かれた骨がそのままにしてあつたそうです。そしてそこを歩くと足下で砕かれた骨が軋むのだそうです。それをお聞きして叫びのような軋みの音が聞こえてくるようでぞつとしながら、同時に私たち人類の歴史はそういう累々とした屍の上を歩んできたことを思われました。

「決して往生することのない魂」という言葉では決着のつかない人間の罪の深さを表現された、そのお言葉そのものが極限において真実の往生にふれていることを表しているようにも思います。

作家・石牟礼道子さん(86)。
熊本県に生まれ、水俣の地に生きてきました。その代表作『苦海浄土』では、水俣病の苦しみの壮絶さが表現されながらも、人間のいのちの深さ、生きることの豊かさを読み取ることができます。石牟礼さんが向き合い続けた人間のいのちの深さとは。今月号より2回にわたり、石牟礼さんの言葉を聞いていきます。

石牟礼 「悶えて何かを加勢せねば」という言い方がありますよね。自分には何も加勢することができない。だいたいそうです。人さまの不幸については、何の役にも立てない。だけど「悶えてなりと加勢する」という言い方もあるのですよ。たとえば一軒の家に不幸があつた時、近所の人たちが集まって、悶え合つて加勢しようとするけれども、何の役にも立たないことが多いものです。

そういう時に、年月がたつて村の人と言うことには、「あの時は、うれしかった。悶えて加勢してもらつた。とてもこう強かった」と。悶えているということがわかるんですね。

—見ているだけだと悶え、悲しむしかないと、いうことが、実は苦しんでいる人の救いになつてゐるのですね。人間の計らいを超えた出来事ですね。

—東日本大震災の後に「毒死列島 身
悶えしつつ 野辺の花」という言葉を書かれたとお聞きしました。

石牟礼 「毒死列島」なんて、今思えばちょっとと言い過ぎたわと思っておりまます。『毒死列島』というのは、今の世の中の状態を表現したのです。水俣をあんなふうにあいまいにしてきた歴史があります。

悶え加勢

—もうひとつ、「悶え神」という言葉もありましたね。苦しむ人がいると苦しくなつてその人の家の前を行つたり来たり。それを悶え神と。

水俣は、山からの道を歩いて行けば必ず海に出るというところです。田舎ですけれどもね。そしてその道はずつと海までつながっている。海と山はつながっております。

らう。そして、雨乞いをしている人たちの家にも雨が降るんです。その中にでも竜が入っている。そんな話を書いてるところです。

悲しみの世から見出される
いのちの深さ

——如來は必ず悲しみの世に、あるいは、苦しみ、五濁の世に出られるのです。

——つながっているのですね。親鸞聖人の「和讃」にでる「天神地祇」という言葉で表現されるような大地や空を失って、私たちとはとても狭い世界を生きることになつてしましました。今は水といえば蛇口から排水溝までしか意識できず、その先こつながつてゐるはずの川も山も海も

空も感じられません。ですからそこの「龍神」を感じる」ともありません。蛇口の蛇はもともと龍のことだったんだでしょうね。石牟礼 私は、必ず作品の中に龍を連れて来ます。

一
そ
う
な
ん

—— そうなんですか。仏教で水は、龍の
はたらきであるとされてきました。いのち
を育むと同時に、ある時は暴れ回つて暑
風雨になつたりもする。仏法では、風や
空や太陽、そういう自然の出来事も龍力
ふしき 不思議 といふ言葉で言つてきました。不
思議という出会い方をしていたんですね
ところが今、私たちはそういう感覚を失つ
てしまつたのではないかと思ひます。昔は

に見えてくるのだと感じさせられます。
前回(9月号)の「閻え神」ということ
も、苦しみを見てしまつた者の苦しみの
上にはたらき出る。そういうかたちで大
切なものが世に現れる感じがします。そ
れは五濁の世、悲しみの世に如来が現れ
るような厳肅な出来事ではないかと。今
のお能の話も、「悲しさ」と「いのちを深く
見つめる」という大切なものが同居して

をした後 春になつてきますと そこ
に自然と小さな花々が生えてきます。
ほんの小さな五ミリくらいのお花で
す。畔のじゅうたん、野辺のじゅうた
ん、花のじゅうたんがいっぱい咲いて
います。その小さな花々を見ると、救
われるというか、私自身が救われます。
「身悶えしつつ」倒れているところを見
ると野辺の花。野辺の花と言えば少し
救いがあるかしら。

1

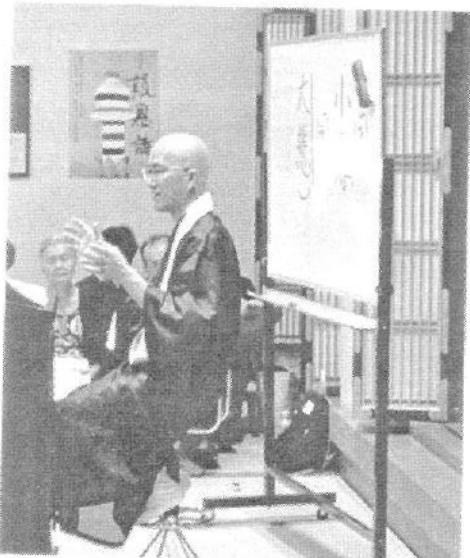
石牟礼 そのように受け取つていただ
いてありがとうございます。「道子さんは、もつと明るい、若い人たちが希望
をもつような、売れるようなものをどうして書かないのか」という方々もお
られます。地域の人たちには、耳の痛
いことを言つているのかもしれない、世
間さまに反抗しているようなことを書
いておりますもので。生きていればい
ろいろござります。

この頃、小さな花々のことが、とて
も気になります。田の畔あぜというのは、
畠よりもちょっと固くしてありますよ
ね。細い土手になつてますね。稻刈り
をした後、春になつてきますと、そこ
に自然と小さな花々が生えてきます。
ほんの小さな五ミリくらいのお花で
す。畔のじゅうたん、野辺のじゅうた
ん、花のじゅうたんがいっぱい咲いて
います。その小さな花々を見ると、救
われるというか、私自身が救われます。
「身悶えしつつ」倒れているところを見
ると野辺の花。野辺の花と言えば少し
救いがあるかしら。

あること難しの

おかげさん
です

佐野先生のお話し



響き

ました。



仏法聴聞
の
場に身を
擡える
かたじけ
なさよ...

あとがき

今午で2回目となる佐野明弘先生のお話です。今回は悲しみを胸にしき本願を生きるくとうお題で、仏さまの悲しみ(大悲)と人間の悲しみを丁寧に話されました。報恩にお参りされた方もそうでない方も、どうぞじっくり味めていたいだきたいと思ひます。

合掌

釋義祐 拝

発行日 2014. 6. 22

■ 03-3368-6947

発 行 真宗大谷派 高徳寺

FAX 03-3362-8019

編 集 住職 新井義雄

〒164-0002 東京都中野区上高田 1-2-9